

# 平成21年度現地視察研修

## 1 概要

現地視察研修として、豊後高田市の食育現場と地域活性を目指した体験交流施設を視察した。

## 2 日時

平成22年2月24日（水）9：00～16：00

## 3 参加者

食育推進会議委員 12名 北部地域食育推進協議会  
食育専門部会担当者 食品安全・衛生課

## 4 視察先・内容

### （1）豊後高田市学校給食センター



### （2）旅庵路臺



## 5 委員の感想（アンケート結果から）

### 豊後高田市学校給食センター



・オール電化方式の集中型給食センターを見るのは、2度目なので、前回ほど違和感はなかったが、清潔でおいしいものが作れるのなら、こういう方式も時代の流れなのかなと思う。からあげがベルトコンベアーで油の中を通るのは、おもしろいが、食べたいとは思えないのが、残念。

・メニューに有機野菜、県産野菜、県漁連の魚などよく取り入れていると思う。

アレルギーの生徒への気配りがよくできているのに感心した。

・民間委託で質がどの程度保たれているかを生徒や保護者の立場で聞けなかったのが、残念。

・学校給食を切り口とした食育事業が学校現場と連携し、学級ごとの課題に対し、担任が授業で取り組み、家庭科の授業やお弁当の日の取り組みなど一体となって食育を推進していることが素晴らしいと思った。

・43人もアレルギー児がいることに驚いた。それを主に1人の調理員さんで対応していることを聞き、大変な苦労だろうと思う。アレルギー対応食を食べている子の保護者に見学しているのだろうか。していなければ、ぜひしたらよいと思う。

### 旅庵路臺

・施設の特徴として、スタッフがほとんど女性であること。地域女性の活躍の場として、地産地消の食事をたべさせていただき、感激した。どこの地域でもなるべく地元の食材を使用するようになるとよいと思う。

・山村なので、高齢者が主にされているかと思うが、主に30代～50代と聞き、驚いた。どこの地区も高齢化が進み、農業＝高齢者というイメージがあったが、地区で協力しあえば、できるものだと思う。

・そば職人を地区で育成し、地区全体がそば処としてPRしていく、合鴨も地区で広めていく、1人でするのではなく、地元が協力しあえたからこそ、うまくいったように思う。

・一言で食育というと難しく、目の前の食べ物のことばかりになってしまうが、地域をあげて、子どもを教育し、地域が生き抜いていく姿の中にこそ、食育の本当の姿が見いだせるのではと思う。都会でも食や食卓を形成するためがんばっている大人の姿を子ども達に見せてあげるべきだと思う。

・地域が一丸となり、農産物を作ったり、伝統文化を継承したり、そのまとまりのよさに感心した。子ども達もとてもよい環境の中で育っている。地域・学校・家庭の連携がとてもうまくいっていると感じた。